

2019年度 決算説明会

株式会社ツムラ

2020年5月12日(火)

本日の内容

① COVID-19対策への取り組み

② ESG経営とサステナビリティ・ビジョン

③ 中国事業アップデート

④ 2019年度 決算

⑤ 2020年度 業績予想

CEO
加藤

CFO
半田

本日の内容です。

2019年度 決算説明会

- ① COVID-19対策への取り組み
- ② ESG経営とサステナビリティ・ビジョン
- ③ 中国事業アップデート

株式会社ツムラ

代表取締役社長CEO 加藤 照和

2020年5月12日(火)

加藤でございます。

今般、新型コロナウイルス感染症でお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、感染されました方々の一刻も早いご回復を心よりお祈り申し上げます。また、現場で治療に当たられておられます医療従事者の皆さま、行政の皆さま、感染防止にご尽力されている皆さまに深く感謝と御礼を申し上げます。

皆様におかれましては、日頃より当社ならびに漢方にご支援を賜り、誠にありがとうございます。

私からはご覧の3点について説明させていただきます。

また、2019年11月6日に意向書を締結し、本年2月28日に契約を締結しました「平安津村による天津盛実百草の持分取得に関する締結」につきましては、予定どおり3月に完了しております。

本日の説明内容

- ① COVID-19対策への取り組み
- ② ESG経営とサステナビリティ・ビジョン
- ③ 中国事業アップデート
- ④ 2019年度 決算
- ⑤ 2020年度 業績予想

それでは、「①COVID-19対策への取り組み」について説明いたします。

COVID-19の影響：中国グループ企業活動

原料生薬の供給体制

原料生薬の供給に影響なく、中国グループ企業はすべて通常稼働

- ✓ 生産に必要な原料生薬を計画的に輸出
- ✓ 一部生薬の需要増(COVID-19関連中薬)、今春の播種状況

天津盛実百草は3月にグループ化

漢方エキス末の製造・供給

現時点では、影響少なく年間計画生産量を確保できる見通し

- ✓ 上海津村製薬は早期に再開・通常稼働。エキス輸出も順調
- ✓ BCP(事業継続計画)に基づき日本と連携し担当処方生産

中国グループ社員：感染者なし

【1/22】中国新型肺炎対策委員会を設置(委員長：中国総代表常務執行役員)

【2/11～18】上海津村・深圳津村・盛実百草再開 【3/20】津村盛実建設工事再開

5

5ページは、中国グループ企業活動への影響についてです。現時点では、原料生薬の供給に影響はなく、中国グループ企業は早期に再開し、すべて通常稼働を行っています。

COVID-19関連の中薬原料である一部生薬の需要増、湖北省で春の播種ができなかった状況があるものの、当社生薬価格への影響は軽微です。

上海津村製薬の漢方エキス末製造・供給にも影響は少なく、現時点では、年間の計画生産量を確保できる見通しです。輸出も問題ありません。

3月末で天津盛実百草が加わり、1,300名超となった中国グループ社員も、昨日5/11迄、感染者はいません。

COVID-19対策への支援活動

天津盛実百草の支援活動(政府要請)



天津盛実百草より湖北省黄冈市中医医院に中薬飲片「清肺排毒湯」を寄贈

COVID-19感染防止対策への支援活動

【1/29】医療用マスク・ゴーグル・防護服等調達目的で中国大使館に500万円寄付

6ページは、COVID-19対策への支援活動についてです。

中国でCOVID-19治療薬として新規に開発された、中薬飲片処方「清肺排毒湯」を、政府要請に基づき天津盛実百草も製造・販売しました。

写真は、湖北省の中医病院に「清肺排毒湯」を寄贈した時の様子です。

COVID-19の影響：日本国内での事業活動

国内生産・物流体制

現時点では、生産関連拠点・物流センターはすべて通常稼働

- ✓ BCP(事業継続計画)に基づいた優先処方・需要増処方の計画生産への対応
- ✓ 同上処方の計画外生産による製品在庫積み増し
- ✓ 長期処方動向にも生産対応

現時点では、安定供給に支障なし

漢方製剤の処方動向

漢方処方医によるCOVID-19に対する漢方治療の考え方などの情報発信に伴う特定処方の需要増(3月後半～4月)

- ✓ 日本感染症学会HPで公開された小川恵子先生(金沢大学)の特別寄稿に関連する処方他
- ✓ 中国新規中薬「清肺排毒湯」に関連する処方(OTCを含む)

7ページは、日本国内での事業活動への影響についてです。

国内生産関連拠点・物流センターはすべて通常稼働しており、現時点では安定供給に支障ありません。国内でも感染者は発生していません。

漢方処方医によるCOVID-19に対する漢方治療の考え方などの情報発信に伴い、特定処方の需要増が3月後半から見られており、BCPに基づいた優先処方・需要増処方の計画生産対応や、計画外生産による製品在庫の積み増し、さらに長期処方動向を見据えた生産対応を行っています。

COVID-19に関する漢方治療の情報発信

3/9

日本感染症学会HP

小川恵子先生(金沢大学附属病院漢方医学科)
特別寄稿「COVID-19に対する漢方治療の考え方」
医療用漢方製剤での代用方法が取り纏められる

4/18

日本医事新報社HP

渡辺賢治先生(元慶應大学漢方医学センター長)他
緊急寄稿
「新型コロナウイルス感染症に対する漢方の役割」
漢方医学での有用性が考察として取り纏められる

4/18

日本東洋医学会HP

高山 真先生(東北大学漢方内科)他
後ろ向き観察研究: COVID-19患者に対する対症療法
と重症化との関連性を明らかにする

8ページは、COVID-19に関する漢方治療の情報発信についてです。

金沢大学・小川先生、元慶應大学漢方医学センター長・渡辺先生の寄稿は、いずれも中国・国家衛生健康委員会等による「新型コロナウイルス肺炎診療ガイドライン(試行第7版)」を参考にされたものです。先ほどの「清肺排毒湯」も、このガイドラインに含まれています。

日本東洋医学会の東北大学・高山先生による「重症化に伴う医療ニーズ増加の抑制に少しでも寄与すべく、COVID-19患者に対する様々な対処療法と、重症化との関連性を明らかにすることを目的とした、後ろ向き観察研究」は、当社として研究支援を行います。

COVID-19に対する漢方治療研究への支援

当社として漢方治療研究への全面的な支援

4/6

研究支援協力要請

日本東洋医学会(伊藤隆会長)より、COVID-19に対する漢方治療に関する研究支援の協力要請
当社として研究を全面支援していくことを決定(4/8)

4/22

業界紙掲載

薬事日報「広がる新型コロナ薬開発-製薬各社、ワクチンなども」に“漢方薬メーカーのツムラも新型コロナウイルスを含むインフルエンザ疾患を対象とした医療用漢方製剤の医師主導臨床研究に対する支援を行う”と紹介

他

その他研究支援

ツムラ医療用漢方製剤の無償提供(予定)

9ページは、COVID-19に対する漢方治療研究への、当社としての支援についてです。

先ほどの東北大学・高山先生の観察研究を含め、「日本東洋医学会」伊藤会長から要請された漢方治療等の研究を、全面的に支援いたします。

COVID-19拡大・継続に伴う影響度合いについて

漢方関連

- ✓ 漢方処方医のCOVID-19に対する漢方治療の情報発信に伴う関連処方の需要増(第1四半期)
- ✓ 心身全体のバランスを整え、自然に治癒する力を高め症状の改善を促す漢方への関心の高まり

外部環境

- ✓ 通院・受診控えやアクセス制限による患者数減少傾向
- ✓ 慢性疾患等の長期処方増加傾向と通院回数の減少傾向

営業活動

- ✓ MRの対面での情報提供不足
- ✓ 重点施策の未実施・遅れ

COVID-19拡大の収束時期や第2波・3波の感染拡大の可能性を見通せないことから、この影響度合いについて業績予想には織り込んでいない。外部機関の市場推計や当社実績・予測から判断し、年間売上に対して2～4%程度マイナス影響の可能性がある。

10

10ページは、COVID-19拡大・継続に伴う影響度合いについてです。

漢方治療の情報発信等に伴うCOVID-19関連処方の需要増が、第1四半期に見込まれること、自然に治癒する力を高め、各症状の改善を促す漢方への関心の高まりがあります。

一方、ご覧のような外部環境要因、またEメールやWebを活用した限定的な営業活動のため、MRの対面での情報提供不足、重点施策の未実施や遅れがあります。

COVID-19拡大の収束時期や第2波・3波の感染拡大の可能性を見通せないため、この影響度合いを業績予想に織り込んでおりません。

外部機関の市場推計、当社の4月実績、一定条件での予測から判断し、年間売上に対して2～4%程度マイナス影響を受けると、現時点では試算しております。

本日の説明内容

① COVID-19対策への取り組み

② ESG経営とサステナビリティ・ビジョン

③ 中国事業アップデート

④ 2019年度 決算

⑤ 2020年度 業績予想

続いて、ESG経営とサステナビリティ・ビジョンについて説明いたします。

当社グループは、CSR基本方針のもと、サステナビリティ・ビジョンとして、「ツムラグループは、漢方バリューチェーンを通じた価値創造と持続可能な社会の実現に貢献します。」を掲げております。

ESG経営とサステナビリティ・ビジョン



12

12ページは、ESG経営とサステナビリティ・ビジョンについてです。

ツムラグループは「本業である漢方・生薬事業で価値を創造し、持続可能な社会の実現に貢献する」というESG経営を継続しています。

オンリーワンで独自技術を持つ会社、多様な人財を結集する会社、サステナブル社会を共に創れる会社、を目指しています。

ガバナンスについては、「統合報告書2019～取締役会過半数を構成する、社外取締役座談会の特集」で、詳しくお示したとおり、より実効性の高いガバナンス・システムへと進化させてまいります。

環境と社会への取り組み、SDGs開発目標達成へ向けた取り組みを、「匠・人・共創」の3つの視点で説明いたします。

“漢方・生薬事業”で価値を創造し医療・社会に貢献する



創業者：社会公益の一端となる意義ある事業
2代重舎：漢方は“非科学的”ではなく“未科学的”

“漢方薬”≠“合成薬”という価値の創造と医療への貢献

“漢方薬”は心身全体のバランスを整え、自然に治癒する力を高めることで症状の改善を促す



COVID-19に対する医療用漢方製剤の有用性探索

日本東洋医学会他からのCOVID-19に対する漢方研究支援要請に対して、全面的な協力を実施することにより、ツムラ医療用漢方製剤の有用性の探索を行う

まず、13ページです。

「社会公益の一端となる意義ある事業」を行う創業者の信念を受け継ぎ、理念に基づく経営を行っております。

2代・津村重舎の「漢方は非科学的ではなく、未科学的である」という価値観が、経営理念「自然と健康を科学する」に反映されています。

漢方薬には、合成薬にない価値を創造し、提供できる可能性を秘めています。漢方薬は、心身全体のバランスを整え、自然に治癒する力を高めることで、各症状の改善を促します。

COVID-19の治療薬やワクチンがない現状、ツムラ漢方製剤が医療や社会に貢献できる可能性を模索します。

オンリーワン・独自技術で新たな価値と市場の創造



平安津村製造・販売プラットフォームによる市場創造

例) 安心・安全で高品質な中薬の製造・販売



次に、14ページです。

中国における安心・安全で高品質な中薬の製造・販売は、「漢方バリューチェーン」を有する当社グループのオンリーワン・独自技術により可能となり、人々の健康に貢献することができます。

豊富な資金力と知名度、最先端のIT・AIなどの技術をもつ中国企業とのパートナーシップは、生薬の自動選別・加工、生薬栽培の科学的管理、労働負荷の軽減など、新しい時代におけるビジネスモデルを構築します。

漢方薬や中薬の品質は“生薬の品質”で決まると言っても過言ではありません。それゆえ、生薬プラットフォームという機能が事業の根幹となります。

独自の栽培研究技術で自然環境保護・循環型社会を実現



平安津村生薬プラットフォームによる栽培地の拡大

例) 森林と水の保全 (自然保護)



例) 野生生薬の栽培化 (環境保全・循環型社会)



15ページです。

当社グループは、事業での廃棄物発生量を極力減らすとともに、自然保護、環境保全、資源循環の取り組みを、長年に渡って行っています。

平安津村プラットフォームへと機能拡大を目指し、林地栽培から畑地栽培への栽培技術確立と面積拡大、野生生薬・栽培化研究の品目拡大により、生薬資源循環を加速させ、先導的な役割を果たしてまいります。

生薬契約栽培が貧困を克服しサステナブル社会を共創

共創

平安津村生薬プラットフォームによる貧困地域栽培

例) 大黄栽培の成功事例 (地域経済への貢献・雇用創出)



貧困地域 (山間地)
粗末な住宅
上下水道が不整備
農家の低収入・貧困
少数民族の就業難

地域経済への貢献
住宅の整備
安全な水とトイレ
農家の収入安定
雇用創出



16

16ページは、生薬契約栽培が貧困を克服し、サステナブル社会を共創するモデルについてです。

ラオスの桂皮(ケイヒ)自社栽培は、クラスター爆弾・不発弾処置とCO2吸収による共創モデルです。

写真は、中国の山間地「団結村」で大黄の栽培化に成功し、長期栽培契約による地域経済への貢献、安定的な雇用創出が実現したモデルです。粗末な住宅は整備され、安全な水とトイレが確保され、就業が困難な少数民族の農業収入が安定した事例です。

習近平政権が目指す「貧困撲滅」に合致しており、平安保険グループの金融資本の活用により、このような事例を拡大・加速することを目指します。

障がい者の皆さんによる高品質な生薬栽培・加工・研究



夕張ツムラ「社会福祉法人はるにれの里」との共創



例) 北海道石狩市「てみるファーム」における生薬栽培



蘇葉の栽培

高品質な蘇葉の栽培
トップレベルの加工技術
技能習得レベルアップ
生薬栽培への継続就業



茯苓
栽培研究

室内での茯苓栽培研究
菌床栽培技術の応用
栽培技術の基盤確立
実用化に向けた研究



17

17ページは、国内モデルです。

2010年より業務委託栽培契約をしている北海道・石狩市の「てみるファーム」の知的・精神・発達障がい者の皆さんが、蘇葉(そよう)の栽培や茯苓(ぶくりょう)の菌床栽培研究などに取り組んでいる事例です。

「生薬」は漢方薬という人の健康に貢献する医薬品の原料であるということ
を認識し、野菜栽培は続けられなかった方も生薬栽培は続けられている。
すなわち「働きがい」という価値を共創しています。
私も毎年訪問していますが、皆さん、ツムラの一員だと思って仕事をされて
います。

このように、漢方バリューチェーンからさまざまな価値が創造され、独自技術
の活用により、多様な人財の力を結集し、サステナブル社会を共創するこ
とが、私たちの目指すESG経営です。

本日の説明内容

① COVID-19対策への取り組み

② ESG経営とサステナビリティ・ビジョン

③ **中国事業アップデート**

④ 2019年度 決算

⑤ 2020年度 業績予想

私の最後のパートは、中国事業に関するアップデートです。

中国事業ビジョン

中国国民の健康への貢献／原料生薬の安定確保

平安津村グループ

～中国で最も信頼される中薬企業に～

2027

売上高：100億元

(中国事業ビジョン 売上イメージ)

2021

売上高：2.4億元

(中国事業中期経営計画)

- ・生薬PF[※]を通じたビジネスの展開
- ・「薬食同源」製品、飲片等を販売

中成薬事業を
柱にする

2018

※PF：プラットフォーム

19

19ページの中国事業ビジョンについては当初より変更はございません。

第3期中期経営計画の中国事業目標であります売上高2.4億元(約40億円)についても、目標達成に向けて計画どおり進捗しています。

2020年2月28日『平安津村有限公司による天津盛実百草
中薬科技有限公司の持分取得に関する契約締結』 3月完了

■資本提携の目的

- 1)日本輸出用原料生薬の安定供給体制の強化
- 2)中薬業界での経験豊富な人財獲得による中国事業の拡大
- 3)中国事業用(中成薬等)原料生薬の安定供給体制の強化

当社グループと盛実百草のノウハウを結集し、
原料生薬の安定供給体制を強化
中国における中薬材(原料生薬)および飲片(刻み生薬)
事業等の拡大を推進し、確固たる地位を築く

20

20ページは、天津盛実百草がグループ会社となり、新たな「生薬プラットフォーム」機能がスタートしたことについてです。

盛実百草グループの創業者であり董事長兼総経理の李剛氏が、生薬プラットフォーム機能の責任者に就任し、特に、中国における中薬材(原料生薬)および飲片(刻み生薬)事業等の拡大を推進し、確固たる地位を築くことを目指します。

生薬プラットフォームの構築

ツムラ・平安津村

生薬関連技術の共有

外販ルートの開拓

生薬プラットフォーム

深圳津村

盛実百草

日本向け
原料生薬

中国向け
原料生薬

中成薬用
原料生薬

飲片
(刻み生薬)

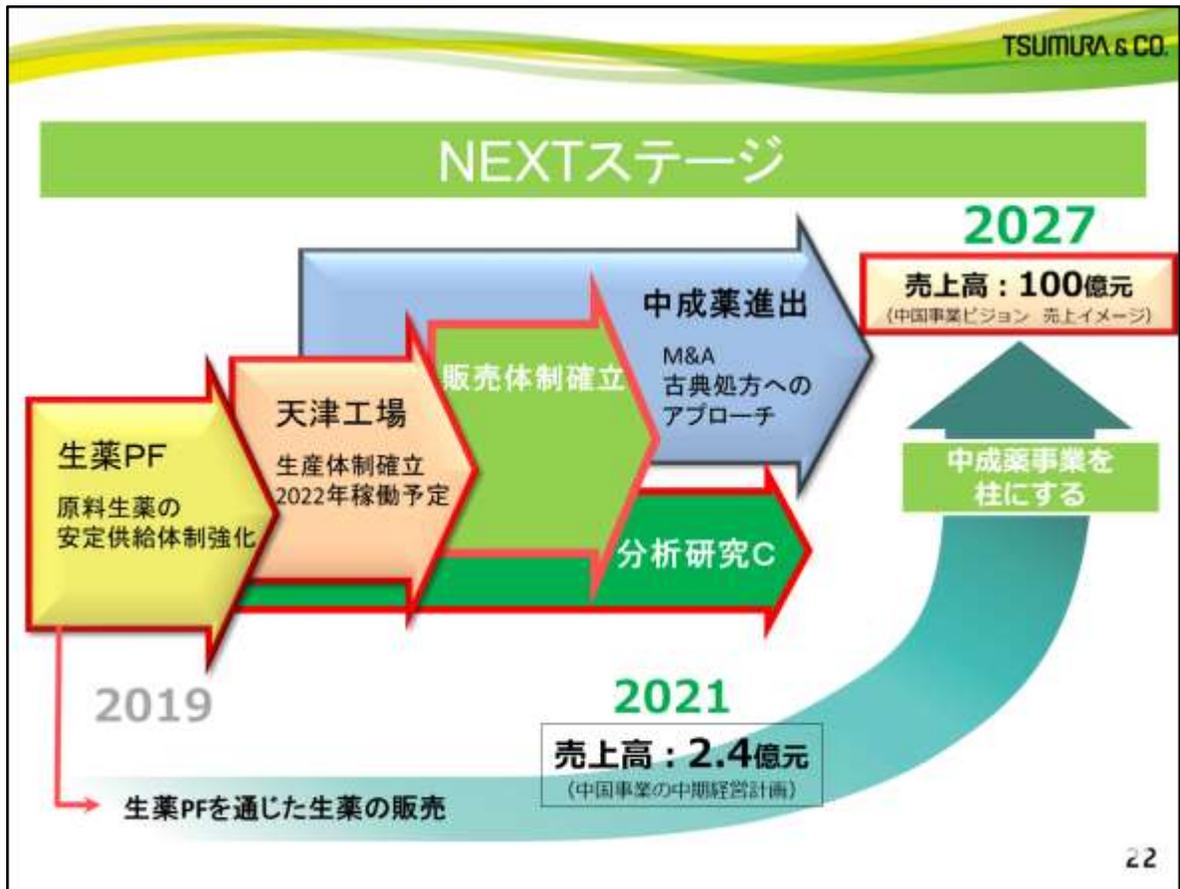
薬食同源製品

21

続いて、21ページです。

盛実百草がもつ中国国内の外販ルートをさらに拡大し、中成薬用の原料生薬や飲片(刻み生薬)の販売を拡大していきます。

生薬プラットフォーム機能の目標・KPIは、「中国国内外販比率を50%以上」にすること、および日本向け原料生薬を将来に渡り安定供給することです。



最後に22ページですが、計画どおり、生薬プラットフォーム機能がスタートでき、中国事業の基盤構築の枠組みが固まりました。

津村盛実・天津工場の建設は、COVID-19の影響による遅れをできる限り取り戻し、2022年の稼働を目指して進めています。
生薬供給拠点である天津盛実百草の隣接地にエキス製剤工場ができますので、効率がよく利便性が高くなります。

分析研究センターは、当初より1年遅れのスケジュールですが、平安保険グループの最先端技術も導入し、先進的な分析研究センターを目指します。

中成薬事業基盤と販売体制の構築のためのM&A候補先を1社に絞り込み、現在交渉を進めております。

私のパートの説明は以上です。ありがとうございました。

2019年度 決算説明会

④ 2019年度 決算

⑤ 2020年度 業績予想

株式会社ツムラ

取締役常務執行役員CFO 半田 宗樹

2020年5月12日(火)

半田でございます。

私からはこちらの2点について、ご説明いたします。

本日の説明内容

① COVID-19対策への取り組み

② ESG経営とサステナビリティ・ビジョン

③ 中国事業アップデート

④ 2019年度 決算

⑤ 2020年度 業績予想

2019年度の決算をご説明いたします。

2019年度 決算の概要

(百万円)

	2019年度 計画	2019年度 実績	達成率	2018年度 実績	前期比	
					金額	伸長率
売上高	125,000	123,248	98.6%	120,906	2,341	1.9%
営業利益 (営業利益率)	17,000 (13.6%)	18,876 (15.3%)	111.0%	18,520 (15.3%)	356	1.9%
経常利益	18,000	19,649	109.2%	19,702	△52	△0.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,300	13,765	111.9%	14,593	△828	△5.7%

	2019年度 計画	2019年度 実績	2018年度 実績
配当金 (1株当たり)	64円	64円	64円

売上高構成比



25

25ページは、2019年度決算の概要でございます。

売上高は、前期と比べ、1.9%増の1,232億4千8百万円となりました。
通期計画達成率は、98.6%です。

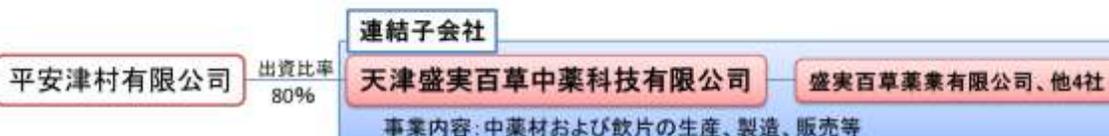
営業利益は、前期と比べ、1.9%増の188億7千6百万円となりました。
通期計画達成率は、111.0%と高めではありますが、これは研究開発費の支払いの期ズレが発生していることが主な要因です。
加えて、COVID-19拡大による活動自粛により、経費の未消化も起因しています。

経常利益は、前期と比べ、0.3%減の196億4千9百万円となりました。

当期純利益は、前期と比べ、5.7%減の137億6千5百万円となりました。
これは、当社の中国における合併会社「上海上薬津村製薬有限公司」の解散および清算の決定に伴う関係会社出資金評価損4億3千1百万円を特別損失として計上したこと等によるものです。

1株当たりの配当金は年間で64円です。

2019年度における重要な子会社の異動



企業結合日	2020年3月30日(みなし取得日 2019年12月31日)
取得した持分比率	80%
連結財務諸表に含まれる取得企業の業績	2019年度は貸借対照表のみを連結損益計算書には取得企業の業績は含まれておりません
のれんの金額	765百万人民元(12,016百万円) 暫定的に算定された金額
のれんの償却方法及び償却期間	20年間にわたる均等償却(年間約600百万円)

企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

	(百万人民元)	(百万円)
流動資産	1,674	26,292
固定資産	365	5,793
資産合計	2,039	32,086
流動負債	1,212	19,029
固定負債	241	3,788
負債合計	1,453	22,818

26

26ページは、2019年度における重要な子会社の異動についてです。

当社の連結子会社である平安津村有限公司が、天津盛実百草中薬科技有限公司の80%の持分を取得したことに伴い、同社及びその子会社5社を連結の範囲に含めております。

連結財務諸表に含まれる取得企業の業績の期間は、2019年12月31日をみなし取得日としており、当連結会計年度は貸借対照表のみを連結しているため、損益計算書には取得企業の業績は含まれておりません。

企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳は、表のとおりです。

決算のポイント

営業利益増益、特別損失計上により増収減益の決算
売上高は計画未達成ながら、すべての利益計画を達成

連結売上高	123,248 百万円	計画達成率	98.6%	前期比	+1.9%
-------	--------------------	-------	--------------	-----	--------------

- 医療用漢方製剤129処方 of 売上高は、前期比+1.8%、金額ベースで66処方が伸長しました。
- OTC医薬品の売上高は、前期比+13.9%伸長しました。

営業利益	18,876 百万円	計画達成率	111.0%	前期比	+1.9%
------	-------------------	-------	---------------	-----	--------------

営業利益率	15.3 %			前期比	+0pt
-------	---------------	--	--	-----	-------------

- 売上原価率は、生薬関連コストは低減したものの、売上構成により41.2% (前期比+0.3pt)となりました。計画に対しては、生薬関連コストの低減により△0.6ptとなりました。
- 販管費率は、COVID-19拡大による活動自粛に伴う経費の未消化等により43.5% (前期比△0.3pt)となりました。計画に対しては、主に研究開発費や経費の支払い時期のズレ等により、△1.1ptとなりました。

経常利益	19,649 百万円	計画達成率	109.2%	前期比	△0.3%
------	-------------------	-------	---------------	-----	--------------

親会社株主に帰属する 当期純利益	13,765 百万円	計画達成率	111.9%	前期比	△5.7%
---------------------	-------------------	-------	---------------	-----	--------------

- 「上海上薬津村製薬有限公司」の解散および清算に伴う関係会社出資金評価損431百万円を特別損失として計上したことにより、前期と比べ、5.7%減少しました。

27

27ページは、決算のポイントでございます。

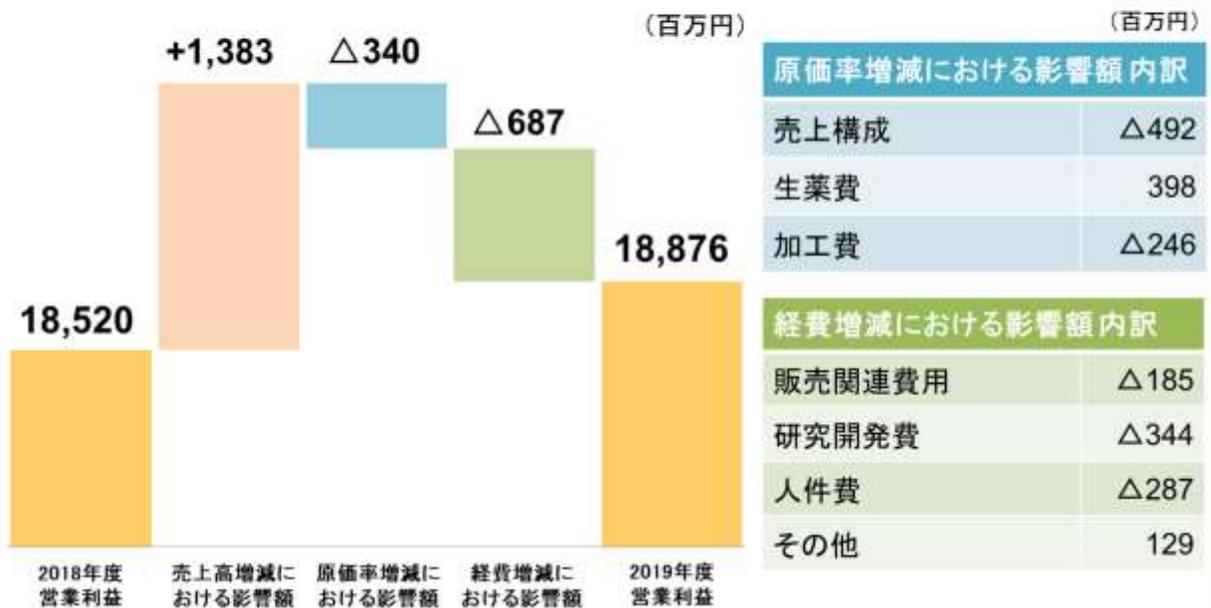
売上高は、昨年10月に薬価改定がありましたが、医療用漢方製剤が前期と比べ1.8%増加したこと、薬局用漢方・一般用漢方などのヘルスケア国内販売が好調であったことなどから、1,232億4千8百万円(前期比1.9%増)となりました。

売上原価率は、41.2%となりました。前期と比べ、生薬関連コストは低減しているものの、薬価改定等に伴う売上構成により0.3pt悪化しました。計画に対しては、生薬関連コストの低減により0.6pt改善しました。

販管費率は、43.5%となりました。前期と比べ、売上増加に伴い販売関連費用は増加しているものの、COVID-19拡大による活動自粛に伴う経費の未消化等により0.3pt減少しました。計画に対しては、主に研究開発費や経費の支払時期のズレ等により、1.1pt減少しました。

当期純利益が、前期と比べ、5.7%減少している理由は、先ほどお伝えしましたとおりです。

営業利益の増減要因(前期比較)



28ページは、営業利益の増減要因でございます。

売上高が、前期と比べ、23億4千1百万円増加しており、営業利益に与える影響額は、13億8千3百万円となりました。

原価率の増減における影響額は、△3億4千万円となりました。

内訳の主なものとして、営業利益のプラス要因では、生薬費の低減による3億9千8百万円、営業利益のマイナス要因としては、薬価改定等に伴う売上構成で4億9千2百万円となりました。

販管費については、売上増加に伴い、販売関連費用が増加していること、加えて研究開発費、人件費等が増加したことにより、当期末における営業利益は、188億7千6百万円となりました。

財務状態

バランスシート

(百万円)

	2018年度	2019年度	増減額
資産合計	287,322	311,042	23,719
流動資産	190,027	194,288	4,261
固定資産	97,295	116,753	19,458
負債合計	81,181	97,993	16,812
流動負債	33,320	48,476	15,156
固定負債	47,861	49,516	1,655
純資産合計	206,141	213,048	6,907
自己資本比率	70.2%	66.0%	△4.2pt

(百万円)

B/S	2018年度	2019年度	比較増減
たな卸資産	51,808	73,310	21,502
(商品及び製品)	9,382	10,338	955
(仕掛品)	11,125	12,418	1,293
(原材料及び貯蔵品)	31,299	50,553	19,254

キャッシュ・フローの状況

(億円)



なお、原材料及び貯蔵品の増加19,254百万円のうち、16,236百万円は盛実百草の資産分

29

29ページは、財務状態についてです。

当期末の資産合計は、3,110億4千2百万円で、前期比で237億1千9百万円増加しました。

流動資産は、前渡金が減少した一方で、たな卸資産の増加等により、前期比で42億6千1百万円増加しました。これは、主に天津盛実百草中薬科技有限公司、及びその子会社5社を、新たに連結したことによるものです。

固定資産は、株価の下落等により投資有価証券が減少した一方で、天津盛実百草中薬科技有限公司の連結に伴うのれんの増加等により、前期比で194億5千8百万円増加しました。

負債合計は、979億9千3百万円で、前期比で168億1千2百万円増加しました。流動負債は、未払金が減少した一方で、天津盛実百草中薬科技有限公司の持分買取資金としての短期借入金の増加等により、前期比で151億5千6百万円増加しました。

純資産合計は、2130億4千8百万円で、前期比で69億7百万円増加しました。以上の結果、自己資本比率は4.2ポイント低下して、66.0%となりました。

キャッシュ・フローにつきましては、ご覧の通りです。

長期経営ビジョン実現へのロードマップ



30

30ページは、長期経営ビジョン実現へのロードマップです。

昨年5月の公表から変更ありませんが、第3期中期経営計画は、成長投資のステージと位置づけ、国内漢方市場の持続的拡大と中国事業の基盤構築を行い、連結売上高は1,350億円以上を目指しており、本年度はスタートから2年目の重要な年となります。

漢方医学の確立

漢方を処方する医師数

医師の2人に1人が10処方以上の漢方を処方する状態

第3期中期経営計画(2019～2021年度):3年間で24,000人増加



2019年度目標8,000人に対して約9,900人増加、順調な滑り出し

漢方医学教育3本柱

漢方医学教育実施大学数	座学	81大学	/ 81大学
	臨床実習	58大学	/ 81大学
学内漢方勉強会		80大学	/ 81大学
漢方外来		80施設	/ 81施設

31ページは、国内事業の柱である「漢方医学の確立」における取り組み状況についてです。

医師の2人に1人が10処方以上の漢方を処方する状態に向けた取り組みでは、第3期中計の3年間で24,000人増やすことを目標に活動しております。

2019年度は、8,000人の目標に対して、約9,900人増加いたしました。

また、漢方医学教育の3本柱として、漢方医学教育実施大学、学内漢方勉強会、漢方外来などへの支援活動を実施しております。

中長期的テーマではありますが、それぞれ、順調に取り組みが進められている状況となっております。

医療用漢方129処方 実売数量推移



32

32ページのグラフは、医療用漢方製剤129処方の実売数量の推移を表しています。

当社標準包装1箱を1本として換算した数量表示です。

2019年度の2,222万本は、2001年度719万本に対して約3倍に増加しています。

金額ベースでは、薬価改定がありますので、伸長が緩やかに見えますが、多くの医療機関で大勢の患者様が漢方製剤を処方・服用されるようになったことの実績であり、国民医療になくてはならない医薬品であると言えます。

医療用漢方製剤(育薬処方・Growing処方)売上高

(百万円)

	売上順位	製品No./処方名	2018年度	2019年度	前期比	
育薬処方	1	100 大建中湯	10,430	10,357	△72	△0.7%
	2	54 抑肝散	7,664	7,774	110	1.4%
	3	43 六君子湯	7,256	7,370	114	1.6%
	9	107 牛車腎気丸	3,625	3,603	△22	△0.6%
	22	14 半夏瀉心湯	1,350	1,390	39	3.0%
育薬処方合計			30,327	30,496	169	0.6%
Growing処方	4	41 補中益気湯	7,158	7,113	△45	△0.6%
	5	68 芍薬甘草湯	5,097	5,202	105	2.1%
	6	29 麦門冬湯	4,734	4,839	104	2.2%
	7	24 加味逍遙散	4,539	4,598	59	1.3%
	8	17 五苓散	4,124	4,491	367	8.9%
Growing処方合計			25,653	26,245	591	2.3%
育薬処方・Growing処方以外の119処方 合計			59,274	60,605	1,331	2.2%
医療用漢方製剤 129処方合計			115,255	117,347	2,092	1.8%

医療用漢方製剤129処方薬価改定率

	2019年10月	2020年4月
薬価改定率	△1.8%	△0.3%

消費増税分を含めると0%

33

33ページは、医療用漢方製剤の売上高です。

医療用漢方製剤129処方合計の売上高は、1,173億4千7百万円、前期比20億9千2百万円の増加、1.8%の伸長となっております。

育薬5処方の売上高は、304億9千6百万円と0.6%の伸長、Growing処方の売上高は、262億4千5百万円と2.3%の伸長でございます。

その他の処方、いわゆる育薬5処方・Growing処方以外の119処方の合計伸長は、2.2%となっております。

2020年4月における薬価改定率は、マイナス0.3%台でした。

2019年10月の薬価改定率が、マイナス1.8%台ですので、2018年4月の薬価から、およそマイナス2.1%台の薬価改定の影響を受けたこととなります。薬価改定率を約2%に抑えられたことは、漢方の価値に見合った適正な価格での販売活動の成果であると考えております。

厳しい医薬品市場の中で、医療用漢方製剤129処方は、前期比1.8%の結果となりましたが、育薬処方である大建中湯・六君子湯・抑肝散は、更なる伸長が必須だと考えております。

大建中湯、補中益気湯の未達要因・対策

大建中湯

【今までの主な訴求ポイント】
消化管運動亢進作用

施策拡充

消化管運動亢進
プラス 腸管血流改善作用

説明会施策の影響 ・大学病院 説明会実施98.8%
・臨床研修指定病院 説明会実施77.5%

2020年度の施策

- ① 効能効果『腹部膨満感』の啓発活動による市場の顕在化
- ② 外科周術期での定着・拡大を目指した大建中湯の様々な作用メカニズムからのアプローチ

消化管運動亢進作用
腸管血流改善作用
抗炎症作用
腸内細菌叢改善作用

補中益気湯

上期:夏季天候不良 下期:風邪が流行しなかったことによる売上減



漢方医学的アプローチの強化

34

34ページは、前年比マイナスの大きい大建中湯、補中益気湯の未達要因・対策です。

大建中湯は、下期から、それまでの訴求ポイントである消化管運動亢進作用に加えて、腸管血流改善作用を訴求ポイントとして活動する計画でしたが、説明会施策の遅れが影響し、大建中湯の売上高は前期比マイナス0.7%となりました。

今年度は、大建中湯の効能効果である「腹部膨満感」について、啓発活動を実施し、市場の顕在化を図ってまいります。

また、消化管運動亢進作用、腸管血流改善作用、抗炎症作用、腸内細菌叢改善作用など、大建中湯の様々な作用メカニズムにより大建中湯の薬剤としての特性の理解を促し、外科周術期での定着・拡大を目指す計画です。

補中益気湯は、上期は夏季の天候不良、冷夏により、下期は風邪が流行しなかったことにより、売上高が伸長せず、前期比マイナス0.6%となりました。

抑肝散、六君子湯の営業施策の進捗状況

六君子湯

処方	2019年度	2020年度	2021年度
六君子湯	ターゲティング施策…「DREAM Study [®] 」資料等を用いた情報提供		
六君子湯	消化器内科を中心とした学術講演会の実施 Web講演会・リアル講演会の展開		
半夏瀉心湯	新たなエビデンス情報の資料化→デュアルプロモーション		

上部消化管疾患治療薬として更なるプレゼンスの確立

※DREAM Study:機能性ディスペプシア患者に対する六君子湯の有効性及び安全性に関する多施設二重盲検比較試験

抑肝散

抑肝散 単独プロモーション	施策拡充	認知症の周辺症状に応じた処方提案
■抑肝散	■採用施設状況	
認知症サポート医 レセプト化	54抑肝散採用施設	44,044軒
	108人参養栄湯採用施設	21,960軒
	両剤採用施設	20,623軒

活動が奏功し、順調に推移。
今後も活動強化を継続する

35

35ページは、抑肝散、六君子湯の営業施策の進捗状況です。

育薬3処方のうち、抑肝散、六君子湯の2処方の売上高は、前期比プラスでした。

各処方の活動内容は、従前通りお示した通りです。

六君子湯の上部消化管疾患治療薬としての更なるプレゼンスの確立に向けた種々の取り組みは、進捗しており、2020年度も更に強化してまいります。

抑肝散の単独プロモーションから、認知症の周辺症状に応じた処方提案への施策拡充については、認知症サポート医の抑肝散のレセプト化、抑肝散採用施設への人参養栄湯の採用などの活動を進めており、抑肝散、人参養栄湯の2処方合計では前期比4.7%伸長いたしました。

2019年度 eプロモーション実施状況

Kampo Mega Web講演会

テーマ	講演者	開催日	視聴者数
「臨床医に漢方はMUSTです」	新見 正則 先生 (東京大学医学部)	2019. 9.25	17,878名
「漢方エキス剤を使いこなす」	新見 正則 先生 (東京大学医学部)	2019.12.16	18,855名
「急性気道感染症と漢方薬」	鍋島茂樹 先生 (福岡大学医学部)	2020. 3.23	17,354名

その他のeプロモーション

配信形式	開催回数	のべ視聴数
ワンポイント動画配信	4回	58,196名
Webセミナー(会場集客型)	5回	11,295名

Web講演会等のeプロモーションは、未面談医師へのアプローチを可能にし、情報提供チャネルとして有効であった。
2020年度においても、相乗効果を狙えるMR活動とeプロモーションを推進する。

36ページは、2019年度 eプロモーション実施状況です。

2019年度は、Kampo Mega Web講演会を3回、ワンポイント動画配信を4回、会場集客型のWebセミナーを5回実施いたしました。

Web講演会等のeプロモーションは、未面談医師へのアプローチを可能にし、情報提供チャネルとして非常に有効な手段でした。

2020年度においても、相乗効果を狙えるMR活動とeプロモーションを推進してまいります。

2020年度 情報提供活動

重点課題	実行テーマ
eプロモーション	Web講演会、オンライン面談など、新たなアクセスの実施 ⇒MR活動を最大化する最適なコミュニケーションの実現
エリア活動	地域特性・施設の特徴を考慮した、きめ細かい情報提供 ⇒漢方を学びたい医師へのニーズに応えるために、 「卒後漢方医学入門セミナー」などエリア企画の開催

漢方の情報ニーズに対し、対面での活動に加え
eプロモーション等の情報提供活動により、
『漢方市場の持続的拡大』を図る

※ COVID-19の状況を鑑み、ニーズに応じた企画をフレキシブルに対応する。

37

37ページは、2020年度 情報提供活動についてです。

2019年度は、多くの医師に視聴いただいたWeb講演会ですが、引き続き、eプロモーション企画として強化してまいります。

COVID-19の影響により、MRの訪問自粛が続いている環境下、今後のMR活動の効果を最大化する最適なコミュニケーションの実現を図るべく、オンライン面談などの新たなアクセス法も探索してまいります。

エリア活動としては、地域特性・施設の特徴を考慮した、きめ細かい情報提供活動を行い、漢方を学びたい医師へのニーズに応えるエリア企画を実施いたします。

販売施策

- 高齢者関連領域、がん領域（支持療法*）、女性関連領域を重点3領域と位置付け、集中的に活動する
- 育薬処方、Growing処方、重点3領域の関連処方による営業アプローチを展開する

高齢者関連領域		がん領域 (支持療法)	女性関連領域
精神・神経疾患	消化器疾患	副作用の軽減など	婦人科疾患
抑肝散 ● + 関連処方	六君子湯 ● 大建中湯 ● 補中益気湯 ● + 関連処方	六君子湯 ● 半夏瀉心湯 ● 牛車腎気丸 ● + 関連処方	加味逍遙散 ● + 関連処方
呼吸器疾患			その他の疾患・症状など
麦門冬湯 ● + 関連処方			大建中湯 ● 五苓散 ● + 関連処方
循環器疾患における周辺症状			
五苓散 ● + 関連処方			

● 育薬処方：
近年の疾病構造を見据え、医療ニーズの高い領域において新薬治療で薬液している疾患で、医療用薬方製剤が特異的に効果を発揮する疾患に特異的、エビデンス（科学的根拠）を確立する処方

● Growing処方：
育薬5処方に加え戦略処方として、治療満足度や薬剤費削減の低い領域でのエビデンス構築（安全性・有効性データ等）により治療ガイドライン掲載を目指す処方

* 支持療法：
がんそのものに伴う症状や、がん治療による副作用の症状を軽減させる等の治療

38ページは、第3期中期経営計画において、お示した販売施策です。

育薬処方、Growing処方、重点3領域の関連処方による営業アプローチを展開し、ご覧のように対象の疾患・領域でお役立ていただけるよう取り組んでおります。

今回、新たに高齢者関連領域において、Growing処方の五苓散を中心に、循環器疾患における周辺症状に対しても注力していくことといたしました。

本日の説明内容

- ① COVID-19対策への取り組み
- ② ESG経営とサステナビリティ・ビジョン
- ③ 中国事業アップデート
- ④ 2019年度 決算
- ⑤ **2020年度 業績予想**

2020年度の業績予想です。

2020年度 業績予想

(百万円)

	2019年度実績	2020年度予想	前期比	
			金額	伸長率
売上高	123,248	132,000	8,751	7.1%
営業利益 (営業利益率)	18,876 (15.3%)	17,000 (12.9%)	△1,876	△9.9%
経常利益	19,649	17,900	△1,749	△8.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,765	13,000	△765	△5.6%

営業利益マイナス要因の主な内訳

研究開発費の増加(2019年度からの期ズレ分を含む)	12.3億円	
盛実百草の連結に伴う経費の増加	11.5億円	
盛実百草の連結に伴うのれんの償却	6.0億円	合計 29.8億円

天津盛実百草の2019年度業績

売上高	166億円
売上総利益	39億円
営業利益	27億円

※2020年度の利益は、全額未実現利益として消去

40

40ページですが、2020年度の売上高は1,320億円を見込んでおります。

営業利益170億円、経常利益179億円、そして、親会社株主に帰属する当期純利益は130億円を目指してまいります。

営業利益のマイナス要因の主な内訳は、期ズレ分を含む注力分野への研究開発の増強12.3億円に加えて、盛実百草の連結化に伴う販管費の増加11.5億円と、同社ののれん償却6.0億円があります。

一方、2020年度における盛実百草との内部取引による利益は、全額未実現利益として消去される見込みであり、同社の利益貢献は翌年度以降となる予定です。

2020年度 業績予想

(百万円)

	2019年度実績	2020年度予想	前期比	
			金額	伸長率
売上高	123,248	132,000	8,751	7.1%
営業利益 (営業利益率)	18,876 (15.3%)	17,000 (12.9%)	△1,876	△9.9%
経常利益	19,649	17,900	△1,749	△8.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	13,765	13,000	△765	△5.6%

	2019年度実績	2020年度予想
配当金(1株当たり)	64円	64円
EPS	179.96円	169.92円
ROE	6.8%	6.2%

COVID-19感染症による影響

COVID-19の収束時期を正確に見通すことが困難なため、上記業績予想にはCOVID-19による影響を反映していません。
仮に感染拡大が、4月から6月をピークとして徐々に収束に向かった場合と継続した場合を想定し、売上高へのマイナス影響を2~4%と予測しますが、長期化した場合等、状況に変化が生じた際には、適時・適切な開示を実施いたします。

41

41ページです。

年間配当は、1株当たり64円を予想しております。

EPSは169.92円、ROEは6.2%の予想でございます。

なお、現時点でCOVID-19の収束時期を正確に見通すことが困難なため、上記業績予想にはCOVID-19の影響を反映していません。

仮に感染拡大が、4~6月をピークとして徐々に収束に向かった場合と継続した場合を想定し、売上高へのマイナス影響を2~4%と予測しますが、長期化した場合等、状況に変化が発生した際には、適時・適切な開示を実施いたします。

株主還元

方針

- “漢方”事業の持続的な拡大と中国事業の成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュ・フローの状況等を勘案し、安定配当を実施する

配当金推移



42ページは、株主還元についてです。

中間配当は、32円とさせていただき、期末配当の32円と合わせて、年間64円の配当を予想しております。

2020年度の配当性向は、先ほどの業績予想ベースで、37.7%を予想しております。

引き続き、漢方事業の持続的な拡大と、中国事業の成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図るとともに、

中長期の利益水準やキャッシュ・フローの状況等を勘案し、安定的かつ継続的な配当を目指し、経営に邁進してまいります。

本資料に関するお問い合わせ先

株式会社ツムラ
コーポレート・コミュニケーション室
広報グループ IR推進グループ
TEL: 03-6361-7100 TEL: 03-6361-7101

見直しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見直し情報」を含みます。これら見直しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見直しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。

ご清聴ありがとうございました。